

(1) 病院機能評価の意義と問題点

— 日本医療機能評価機構，評価部会員・サーベヤーの立場から —

山 本 修 三

(1) SIGNIFICANCE AND PROBLEMS OF THE ASSESSMENT BY THE JAPAN COUNCIL FOR QUALITY HEALTH : FROM ASSESSOR' S STANDPOINT

Shuzo YAMAMOTO

日本医療機能評価機構による病院機能評価事業が本格的にスタートして丸5年を経過し、現在、当初受審した施設の再認定も行われている。はじめは本事業に対する理解が十分に得られない時期もあったが、医療提供体制の改革、診療報酬の改定などの影響もあり、最近、急速に病院機能評価の重要性と受審の意義が高まり、受審希望病院が急増し、これまでに1,120病院以上が認定されている(2004年1月26日)。この現状を踏まえ、機能評価機構の評価部会員およびサーベヤーの立場から、病院機能評価の意義と問題点について述べる。

病院機能評価とその意義

病院機能評価の目的のひとつは医療の質の向上にある。医療の質に関わる要素として、構造 (structure)、過程 (process)、結果 (outcome) の3要素が挙げられる(図1)が、病院機能評価は病院機能を6領域にわけて、それぞれについて、この3要素の視点から評価してゆくものである。この6領域とは、1 病院組織の運営と地域における役割、2 患者の権利と安全の確保、3 療養環境と患者サービス、4 診療の質の確保、5 看護の適切な提供、6 病院運営管理の合理性である(表1)。

実際の審査は、書類審査と訪問審査によって、中項目といわれる173項目を小項目といわれる577項目から評価する。この事業のスタート時から見ると、現在の評価項目は現場の意見、機構での検討を経て改定を重ね、現バ

ジョンは、安全管理と患者の権利、サービス、チーム医療のあり方など患者中心の医療提供とそのあり方およびその結果という視点が重要視されたものに改善されている。とくにチーム医療について、例えば、第4、5領域のケアプロセスの項目に見られるように、患者に関わるすべての医療職がどのように連携して、適切な医療が提

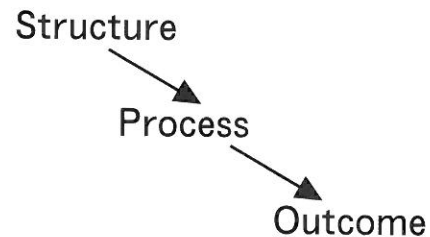


図1 医療の質

表1 病院機能評価 対象領域

第1領域	病院組織の運営と地域における役割
第2領域	患者の権利と安全の確保
第3領域	療養環境と患者サービス
第4領域	診療の質の確保
第5領域	診療のケアプロセス 看護の適切な提供
第6領域	看護のケアプロセス 病院運営管理の合理性

日本医療機能評価機構 The Japanese Council for Quality Health Care 評価部会

Address for reprints : Shuzo Yamamoto, The Assessment Section, The Japanese Council for Quality Health Care, 302, Tatemachi, Kanagawa-ku, Yokohama, Kanagawa 221-0063, JAPAN
e-mail : kgyotan@kanagawa-s.saiseikai.or.jp

Received January 26, 2004

Accepted July 16, 2004

供されているのかという点を問う内容が含まれている。

このような病院機能評価を受審する意義は、受審する過程で管理者は病院全体の状況が具体的に把握できるという大きな利点がある。現場の人々にとっては、受審に向けた取り組みの中で現状の見直しが改善につながり、他職種との話し合いによって、情報の共有の重要性、患者中心という視点の理解が深まるなどの効果も期待できる。これらの効果として、表2に示すように、受審による職員の意識改革と活性化は、全体として医療の質とサービスの質の向上に反映され、患者中心のチーム医療のあり方が具体的に検討できるという利点につながる。また、第6領域を多面的に分析してゆけば、病院の経営管理に有効な管理会計のあり方にもつながる項目が準備されている。すなわち、病院機能評価は受審の過程における見直し、院内の議論、改善に大きな意義があり、そのためには職員全体で取り組むことが絶対条件となる。

問題点について

実際の評価はすべての項目が絶対評価基準によって客観的に評価する形にはなっていない。実際には病院の規模、設立母体等も考慮に入れたもので、相対的評価として、サーベヤーの判断が入る余地があり、これがときに問題となることも指摘されていた。しかし、これに対

表2 病院機能評価の意義

- 職員の意識改革と活性化
- 医療の質の向上
- サービスの質の向上
- 医療の信頼につながる
- 病院財務・管理会計への反映

しては、評価の基準・判断に関する解説が整備されており、最終的には、上位の評価会議で適正に調整される仕組みでカバーされている。また、現場の実態と医療の結果を評価していないという指摘もよく聞かれたが、この点も新しいバージョンでは、具体的な結果を評価する項目も増え、現場での結果に結びつく活動とその成果が評価される仕組みに進化している。

おわりに

限られた紙面で十分に意を尽くせない点をご容赦を頂き、病院機能評価の受審・認定病院が増加し、それが医療の質の向上と医療の信頼の回復に結びついてゆくことを切に願う次第である。

(平成16年1月26日受付)

(平成16年7月16日受理)